

HOW TO

(外的要因による) 混乱に
適応するための
物流ネットワークを
構築するには





適応に向けて

絶え間なく続く(外的要因による)混乱は需要と供給、さらには労働力やキャパシティを揺るがし、現在も物流業務に影響を及ぼしています。輸送や倉庫管理におけるシステムの大半がサイロ化しているため、運送中の製品、倉庫および店舗の在庫に関するリアルタイムな可視性が欠如しているのです。既存のシステムでは、リスクに基づいたシナリオをモデル化して緊急時における計画を策定することが不可能であるため、企業が潜在的な問題に対して常に先手を打っておくことは困難です。

レジリエンスを高め、如何なる混乱にも対処できるようにするには、変化する環境へ迅速に適応できるスピードと柔軟性が必要となります。物流ネットワーク全体を見通せる可視性を持ち、潜在的なシナリオをモデル化できる能力を備えておくことが極めて重要です。それにより、十分な情報に基づいて意思決定を行い、発送の遅延を最小化できるのです。

エンド・ツー・エンドの物流ネットワークを管理する上では、連携性の高いオーケストレーションが欠かせません。断片的な物流システムに依存している企業は、時代に取り残されていくでしょう。現代において、あらゆる不測の事態を切り抜けるだけのレジリエンスを手に入れるために必要なのは、デジタル的に統合された物流ネットワークなのです。

ご存じですか？

世界的危機に関する PwC 社の調査で判明したこと

- 回答者の過半数 (53%) が、自身が経験した危機のうち、少なくとも一つはオペレーションに関するものだったと回答しています。例えば、業務上のシステム崩壊、市場競争の混乱、サプライチェーンの問題、様々なタイプの製品不良などです。¹
- PwC 社の追跡調査によると、CEO の大半が、リモートコラボレーション (78%)、オートメーション (76%)、オフィス勤務スタッフの減少 (61%) など、コロナ禍をきっかけとして様々な変化が浸透していると考えています。全体で見ると、**61%** が、将来的に自社のビジネスモデルのデジタル化が進むと回答しています。これは、コロナ禍によって加速した変化と言えます。²
- CEO の **58%** が、サプライチェーンの安全性が重要課題として残ると回答しており、生産から配送における製品のトラッキングを可能にすると共に、サプライヤーおよびパートナーが危機においてもレジリエンスを保てるようにするため、テクノロジーへの投資が加速させると考えています。²

¹ “PwC’s Global Crisis Survey 2019, (PwC 社による世界的危機に関する調査 2019)” PwC.

² “CEOs: Post-Covid changes are permanent and there are more to come, (コロナ禍がもたらした変化は恒久的に定着し、今後さらに増加が見込まれる)” 2020 年 8 月 11 日に PwC 社よりプレスリリースにて公開



以下のシナリオに該当するものがあるか、確かめてみてください。

- 運送中の製品や在庫状況に関するリアルタイムな可視性が欠如しているため、不測の事態によって配送の遅延や在庫切れといった状況に陥ってしまう。
- シナリオプランニングやシミュレーションが欠如しているため、迅速かつ実行可能な意思決定を下すのが困難である。
- 大量の製品の迅速な発送および安全在庫が原因で、物流コストが増加している。
- 現在の輸送資産、キャパシティ使用率、倉庫の空き状況に関する可視性が欠如しているため、「供給コスト」の算出が困難である。
- 現行のシステムでは運送および流通に伴うすべてのニーズを管理することができず、貨物流通パートナーやその他のビジネスプロセスと統合することも不可能である。

適応性の高い 物流ネットワークが もたらす成功とは どのようなものか？



1. (外的要因による) 混乱へ迅速に対応できる

統合かつ一元化されたプラットフォームの維持が可能となり、サプライヤとパートナーのリアルタイムな連携により、混乱に陥った状況においても、輸送、海外との貿易、倉庫業務を管理することができます。

2. リアルタイムな可視性と管理力を得られる

「仮定」のシナリオに基づいて最適な輸送オプションを選択し、必要な変更を迅速に行える能力が得られます。

3. 事業コストの削減および顧客サービスの向上が可能になる

正確なリードタイムを割り出し、ルート変更や不測の事態により生じる遅延を特定することで、非常に優れたサービスを提供することができます。

オラクルのソリューション

- ✓ **輸送ネットワークを跨いで発送業務を最適化**でき、生産性とキャパシティ使用率を最大化させ、迅速な輸送に伴うコストを削減させることができます。さらに、輸送オプションのシミュレーションを行うことで、意思決定をよりの確なものにできます。
- ✓ コンテナヤードや流通センター全体で在庫状況の可視性を確保できていれば、**オムニチャネルのフルフィルメントをサポート**ことができ、在庫切れのリスクを減らすと共に倉庫の効率性を高められます。
- ✓ **輸送、貿易、倉庫のケイパビリティを統合**させることで、輸送状況・越境・流通の優れた可視性が生み出され、製品発送や在庫管理において統率の取れたシステムを実現できます。そして、全般的な物流コストを削減しつつ、顧客満足度を向上させることができます。

“Oracle Transportation Management の自動化された輸送プランニングアルゴリズムによって、輸送および物流のプランニングや意思決定に関するインサイトを創出することができた。まさに、グローバル企業のサポートに必要な柔軟性のある機能を備えた、世界中で認められたソリューションだ”

— **Wendy Herrick**
バイスプレジデント、
デジタルサプライチェーン、
Unilever United States 社



適応性の強化に向けて検討すべき ステップとは？

ステップ 1.

システムのギャップを特定しましょう。輸送ルート、キャパシティ、車両、人材、倉庫の空き状況などに関して問題が発生した場合、輸送ネットワークと倉庫業務が最も脆弱となる分野を突き止めるのです。

ステップ 2.

既存の輸送プランニングにおけるケイパビリティの見直しを行い、シナリオをモデル化して輸送業者やルートの選択肢に基づいてコストを定めることができるかどうかを見極め、緊急事態への対応策を考案しましょう。

ステップ 3.

迅速な製品発送、安全在庫、税関絡みのペナルティなどのような、輸送・流通に伴うコストの増加が発生している、**物流プロセスにおける分野を審査**しましょう。



フルフィルメントを最適化してビジネスインパクトを最大化させる方法について詳しく知りたい方は、こちらの [Perfect Delivery](#) か、以下の製品ツアーをご覧ください。

[製品ツアー](#)

Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates.本記事は情報提供のみを目的として作成されたものであり、記載されている内容は予告なしに変更される場合があります。本記事は、明示的か黙示的かを問わず、誤りがないことを保証するものではなく、黙示的な商品性の保証および条件あるいは特定の目的への適合性を含む、如何なる保証および条件の対象となるものではありません。弊社は、本記事に関連する如何なる責任も明確に否認します。また、本記事によって、直接的あるいは間接的に弊社へ契約上の義務が発生することはありません。弊社の書面による事前の許可なしに、如何なる目的であれ、電子的であろうと機械的であろうと、形式・手段を問わず本記事を複製または転載することを禁止します。Oracle および Java は、Oracle とその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。